人類の営みを科学する、多彩な研究領域

生活科学研究科

募集人数			
	修士課程	生活環境学専攻 ：	6名
	博士前期課程	食物栄養学専攻 ：	6名
	博士後期課程	食物栄養学専攻 ：	2名

研究科の概要

社会や生活と深く関連のある２専攻を設置しています。

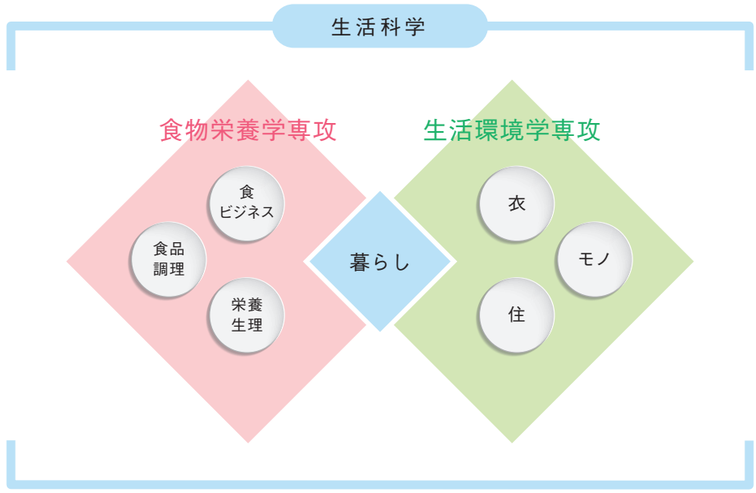
食物栄養学専攻
［博士前期課程・博士後期課程］

栄養学、食品学、調理学、食ビジネスあるいは生理学等に関する高度な知識と研究遂行能力を身につけます。博士前期課程では、自身が定めた研究課題に取り組み、修士論文にまとめます。博士後期課程では、さらなる学識の向上を目指すとともに、学術的価値の高い論文を作成します。

生活環境学専攻
［修士課程］

生活環境を構成する衣・モノ・住空間・建築・地域社会・人間工学・社会文化・生活心理・保育等の分野における実務と研究能力を磨きます。
そのため、人間中心設計学、生活材料科学、衣環境設計学、住環境設計学、環境文化学等の各分野での高度な知識と修士論文、修士設計、修士制作の作成過程における研究能力をバランスよく高めていきます。研究成果は専門学会等で発表します。一級建築士受験資格の実務経験（1年）の要件を満たせるカリキュラム構成となっています。

研究領域の概念図



養成する人材像

食物栄養学専攻

栄養学、食品学、調理学、食ビジネス、生理学の知識を活かし、研究職、教育職、高度な専門職へ。

より深い研究に取り組むことで、基礎的あるいは実践的な研究・開発を行う研究職、教育職、および高度な専門的知識を持つ栄養士・管理栄養士や専門技術者を養成します。

キャリアパス 〈修了後の進路イメージ〉

研究・教育（大学、研究機関、企業）／医療・福祉（管理栄養士、行政栄養士）／
一般企業（食品開発、スポーツ栄養士、栄養アドバイザー等）／
公務員・国際機関（厚生労働省、JICA）／独立開業／進学　等

生活環境学専攻

「衣」「モノ」「住」の分野を中心に社会で活躍する専門家を養成。

衣・モノ・住空間・建築・地域社会・人間工学・社会文化・生活心理・保育等に関わる高度な知識を身に付け、さらに「生活の文化的側面」を理解した専門家を養成します。実務と研究について十分な知識と遂行能力を養い、職業人として長く活躍できる基盤を築きます。

キャリアパス 〈修了後の進路イメージ〉

一級建築士／検査機関（建築、繊維・アパレル分野）／デザイナー／
研究職（大学等）／進学　等

※各免許・資格は本学大学院修了と同時に取得または受験資格を得られるものではありません。

生活科学研究科

食物栄養学専攻

※2026年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

大道 公秀
専門分野：食品衛生学、考古化学
最近の研究テーマ等：①カビ毒の安定性と類縁体の探索、②古代食解明に向けた考古化学的アプローチ

於保 祐子
専門分野：小児遺伝学、個別栄養遺伝学
最近の研究テーマ等：①食選択行動に影響するゲノム変異の解析、②遺伝子発現の3次元網羅測定と結果のデータベースシステムを基盤とした脳機能解析

篤 慎治
専門分野：生理学、病態生理学、神経解剖学
最近の研究テーマ等：①神経疾患の簡便かつ非侵襲的な病態評価方法の確立、②小児の運動機能発達の研究

佐々木 渓円
専門分野：公衆衛生学、母子保健
最近の研究テーマ等：①成育医療等基本方針に基づく評価指標の目標達成に関する研究、②食物アレルギーに関する社会医学からのアプローチ

白尾 美佳
専門分野：食品栄養学
最近の研究テーマ等：①食品中の機能性物質に関する研究、②食品栄養成分の鏡像異性体に関する研究、③各ライフステージにおける食嗜好や食育に関する研究

杉山 靖正
専門分野：食品分析学、天然物化学
最近の研究テーマ等：①食品に含まれる機能性物質の化学構造および含有量の決定、②低利用および未利用資源の食品への有効活用

鈴木 浩明
専門分野：臨床栄養学、内分泌代謝学
最近の研究テーマ等：①２型糖尿病患者における栄養療法と運動療法による筋力強化および転倒予防、②アミノ酸代謝産物とがんとの関連

中村 彰男
専門分野：栄養生化学、分子栄養学
最近の研究テーマ等：①胎児期の栄養が生まれた子の将来の疾病に及ぼす影響、②エクソソームを用いた新規バイオマーカーの探索

奈良 一寛
専門分野：食品化学
最近の研究テーマ等：①新たな食資源の有効活用法の探索、②調理加工による食品成分の変動とその利用

長谷川 めぐみ
専門分野：国際栄養学、栄養教育、公衆栄養学
最近の研究テーマ等：①開発途上国における栄養教育ツールの開発、②アジア、アフリカ諸国における学校給食の意義と栄養教育との関連

三石 誠司
専門分野：経営戦略論、組織論
最近の研究テーマ等：①グローバルな食料需給と日本の食料安全保障に関する研究、②地元農畜産物の活用、特に地域での生産と消費をつなぐ仕組みの研究

山本 康貴
専門分野：食料農業経済学、環境政策
最近の研究テーマ等：①食品生産における社会環境影響の評価手法開発、②気候変動、環境政策、農産物貿易、生産性向上といった要素が農業に与える影響の分析

カリキュラム

博士前期課程 カリキュラム

科目名	単位数
栄養学特論A・B・C・D	選択各２単位
栄養学演習	選択２単位
栄養学実験	選択２単位
生理学特論A・B・C	選択各２単位
食品学特論A・B・C・D	選択各２単位
食品学演習	選択２単位
食品学実験	選択２単位
公衆衛生学特論	選択２単位
食品衛生学特論	選択２単位
食品企業経営特論	選択２単位
調理科学特論A・B	選択各２単位
食物栄養学特別講義A・B・C	選択各２単位
特別研究	必修12単位

博士後期課程 カリキュラム

科目名	単位数
栄養学特別演習A・B・C・D	選択各2単位
食品学特別演習A・B・C	選択各2単位
調理科学特別演習	選択2単位
食品企業経営戦略特論	選択各2単位
生理学特別演習	選択2単位
博士特別研究	必修8単位

科目紹介 [一部抜粋]

博士前期課程

栄養学特論 A
栄養がヒトの健康に与える影響について、栄養素が、細胞の代謝に与える影響から、ヒトの健康に及ぼす影響について英文原著を精読して最新の知見を理解する。論述の様式や検証法の組み立て、考察の展開法も深めていく。

栄養学特論B
人の体と栄養素との関係、特に個別の遺伝学的背景にあった栄養摂取について、分子レベルの現象として理解を深める。各自が課題を設定し、英文も含めて論文を輪読することで、課題を解決する過程を学ぶ。

栄養学実験
無菌操作に基づいた細胞培養法を習得し、数種の培養細胞を用いた実験を行う。栄養学の研究に欠かせない個体、組織、細胞を用いた系に関する基礎的な実験技術の習得を目的とする。

生理学特論 A
疾病の成り立ちが分子レベルで明らかになり、多くの薬物が開発されている。体内において薬物がどのような仕組みで働くかについて、分子レベルでの理解を深めることを目的とする。

食品学特論 A
日本および世界の食料事情にも目を向けながら、農林水産物の特徴や有用性について理解を深め、有効な利用法について考えていく。さらに、原著論文の購読やそれについてのプレゼンテーションも行い、研究の組み立てや結果の伝え方についても修得する。

食品学特論 C
食品成分は生命活動を維持するだけでなく、生体を調節する機能性も存在する。そこで近年の食品分析ならびに食品機能性の評価方法について理解することを目的とする。

公衆衛生学特論
すべての人は、健康的に生活する権利をもっている。ここでは、健康を左右する要因について科学的根拠に基づいて理解を深め、食物栄養学を専攻する科学者や行政に求められる対策を考える。

調理科学特論 B
調理は食品が持つ栄養素を有効に利用し、嗜好性を満足させることである。食品を調理する際に起こる様々な変化について科学的に理解し、嗜好性を充足させ機能性を活用するための調理を習得することを目的とする。

博士後期課程

栄養学特別演習 A
臨床栄養学に関する最新の英語論文を読みながら理解を深め、臨床研究の研究手法と研究内容について学び、研究課題の着眼、発掘、研究計画の構築法、理論の展開法など臨床研究遂行に必要な能力を習得する。

栄養学特別演習 C
ライフサイエンス分野の最新の英語論文を精読し、ピアレビューを行いながら、データのまとめ方や論文投稿のプロセスを学びます。また、研究資金の調達方法や、研究者倫理・生命倫理についても解説します。

食品学特別演習 C
特定保健用食品および機能性の作用メカニズムの解析が行われている食品を題材にして、機能性食品の作用機序、有効性、安全性に関する学術論文の解読を行い、機能性食品の研究手法と解析・実証方法を学ぶ。

生理学特別演習
この演習授業では筋細胞を構成しているタンパク質とその遺伝子発現機構について学習し、骨格筋の可塑性について理解を深めることを目的とする。

生活科学研究科

生活環境学専攻

※2026年4月時点での情報となります。(定年退職などの退職予定者含む)

専任教員プロフィール

安齋 利典
専門分野：プロダクトデザイン、ヒューマンセンタードデザイン
最近の研究テーマ等：プロダクトデザイン教育に関する研究、BtoB 機器の操作性 /UX に関する研究

一色 ヒロタカ
専門分野：建築設計、まちづくり、コミュニティデザイン
最近の研究テーマ等：参加型デザインによる建築設計手法に関する研究、プレイスメイキングによるまちづくり手法に関する研究

大川 知子
専門分野：ファッションビジネス・企業経営史
最近の研究テーマ等：ファッション関連企業の経営と事業戦略、日本における欧米ファッションの受容など

笠原 良太
専門分野：家族社会学、ライフコース論、家族関係学
最近の研究テーマ等：産業構造転換と子どもの発達・人生移行、高年期における人生回顧・再検討、教育実践の社会史・アーカイビング

加藤木 秀章
専門分野：繊維工学、テキスタイル材料、複合材料工学
最近の研究テーマ等：表面処理を施した天然繊維の特性、繊維を用いたエコマテリアルの創製とその特性

作田 由衣子
専門分野：認知心理学、知覚心理学
最近の研究テーマ等：①印象の知覚が記憶に及ぼす影響、②乳幼児でも顔から印象を知覚できるか など

佐藤 健
専門分野：人間工学
最近の研究テーマ等：①日常生活における安全行動と事故要因に関する研究、②高齢者・障がい者の運動機能に関する研究

塩原 みゆき
専門分野：被服整理学、染色加工
最近の研究テーマ等：家庭洗濯から排出される繊維クズの回収、ストッキング・タイツの紫外線防御効果

須賀 由紀子
専門分野：余暇・生活文化学、地域文化形成論
最近の研究テーマ等：多世代交流のコミュニケーション・ツール開発、地域の価値共有手法の開発、スポーツと地域活性、関係人口と地域自立社会の形成

髙橋 桂子
専門分野：生活経営学、生活経済学
最近の研究テーマ等：①大学生の金融リテラシーに関する実態調査、②父親の家事参加が子の非認知能力に与える影響に関する研究

滝澤 愛
専門分野：ファッションデザイン、被服構成学
最近の研究テーマ等：日仏のファッションデザイン教育比較の研究、20世紀初頭フランスのパターン研究、和式洋裁の実態の研究

橘 弘志
専門分野：建築計画学、環境行動研究
最近の研究テーマ等：高齢者や子供のための居住施設の計画・評価、人子供の発達環境としての住まい、都市の魅力に関する研究など

内藤 将俊
専門分野：建築・都市デザイン、建築計画、市民ワークショップ
最近の研究テーマ等：老人ホームや指定障害者支援施設における入居者の行動分析に関する研究、設計・施工監理の実践による先進的空間思想の構築に関する研究

槙 究
専門分野：環境心理学、色彩計画
最近の研究テーマ等：インテリア・ファッションなどのカラーコーディネート印象評価研究、夜間街路の光環境ガイドラインに関する研究、人の存在が街並み評価に及ぼす影響など

カリキュラム

修士課程 カリキュラム

科目名	単位数
人間中心設計学特論A・B・C	選択各2単位
人間中心設計学演習A・B・C	選択各1単位
生活材料科学特論A・B・C	選択各2単位
生活材料科学実験A・B・C	選択各1単位
衣環境設計学特論A・B	選択各2単位
衣環境設計学演習A・B	選択各1単位
住環境設計学特論A・B・C	選択各2単位
住環境設計学演習A・B・C	選択各1単位
環境文化学特論A・B・C	選択各2単位
環境文化学演習A・B	選択各1単位
高分子化学特論	選択2単位
生理学特論	選択2単位
生活情報科学	選択2単位
実験心理学	選択2単位
建築インターンシップ	選択4単位
特別研究(論文・設計・制作)	選択必修各10単位

科目紹介 [一部抜粋]

人間中心設計学演習 A
実践的な建築設計科目として、設計スタジオ型プログラムを行う。具体的な建築設計等を課題とし、課題設定からプレゼンテーションまでを手がけ、建築設計における実践力を養うと同時に知識や技術を修得する。

人間中心設計学特論 B
近年、生体信号を用いて、福祉機器の制御や評価を行う試みが進められている。そのために必要な生体信号とその処理の方法について学修する。理論や計算だけでなく、信号処理ソフトによる演習も行う。

人間中心設計学特論 C
プロダクトデザインの手法や理念は企業が経営戦略として活用しており、アパレルや建築、農業の領域にまでおよぶ。そこで、モノ作りからマーケティングまで、プロダクトデザインの世界を広く解説する。

生活材料科学特論 B
経済発展や大量生産・消費・廃棄の生活により様々な環境問題が生じていることに気付き、環境に配慮した持続可能な生活を実現するための基本的な環境科学を学習します。

生活材料科学実験 B
自然エネルギーの一つであるバイオマスの燃料化などの実験に取り組み、有機エネルギー資源の基本的な実験操作、及び有機化学の基本的な機器分析を修得する。特にバイオマス資源から様々な燃料(化石資源代替燃料)が得られることと、その問題点を実践的に理解する。

生活材料科学特論 C
染色・加工された被服材料やインテリア材料などを適切な維持管理する上で必要な、それら素材の構造、物性、特性について学び、染色加工の工程や消費性能についても理解を深める。

生活材料科学実験 C
繊維や染料、染色物を測定・分析する際に用いる機器の扱い方を習得する。タンパク質および油汚れの測定等、分光分析、分離定量を中心に行う。

衣環境設計学特論 A
被服行動や消費者行動を社会心理学的な視点から学び、ファッション企画に必要な消費者に対する理解を深める。ファッションの色彩嗜好やライフスタイルについても触れ、心身の要因から衣の消費生活を理解する。

住環境設計学演習 A
アンケート調査、インタビュー手法、ブレインストーミング、評価グリッド法など、環境形成および環境調査に関わる調査手法や発想法を学ぶ。その後、自ら設定したテーマに関してMulti-Methodの調査を実施する。

住環境設計学特論 B
『建築理論の創造』をテキストに講義する。同書第2部の「実体的理論―環境と人間の行動」を中心に、環境行動研究アプローチからインテリア・建築・都市などの環境デザインについて議論する。

住環境設計学演習 C
特定の実在する具体的な環境のもと、その物理的条件や周辺環境、地域性、社会性を分析した上で、各自が考える空間思想に基づいて新たなプログラムやスペースのデザインに取り組む。

環境文化学特論 A
史実やその文化的背景を探りながら、ファッションに関連したライフスタイル全般について、19世紀半ばから現代に至る変遷を、文化的な視点から検証する。

環境文化学特論 B
人間が家族や社会との相互作用の中でどのように生活してきたか、蓄積されつつある家族と社会の形成に関わる研究成果をとりあげ、当該領域における現状やその動向等を学ぶとともに、家族関係学や生活経営学的視点から考察を深める。

環境文化学演習 B
行動経済学の視点から人間の非合理的な意思決定について学ぶ。文献輪読で基礎を学び、政策で活用されるナッジ事例を調査し、各自の専門分野に基づく独自のナッジを提案する。

環境文化学特論 C
文化とは何か、幸福とは何か、コミュニティとは何かといった、人間らしく「ある」ことの根源のなテーマをもとに、人が「文化的に生きる」ということの意味を深め、これからの時代の豊かな生活創造のあり方を考察する。

生理学特論
発達障害の生活環境を構造化から考えるTEACCHプログラム、応用行動分析による支援、医療コミュニケーション、精神現象とその生理・病理について学習する。

実験心理学
実験心理学、実験臨床心理学(単一事例研究法)における要因配置計画、データ収集方法、および分析、結果のまとめ方、考察の仕方、論文としてのまとめ方を学習する。

建築インターンシップ
一級建築士受験資格(実務経験)の要件を満たすための科目の一つとして、インターンシップ先での設計・工事監理補助の実務やスタジオ形式の実践的な建築設計を行う。